



from 東北

東日本大震災から8年が経ちました。今年の3月11日にも、全国の教会・伝道所の皆様が東北を覚えて祈りを合わせてくださったことを聞き、本当に励まされました。私たちが熊本・大分地震をはじめ各地で被災された方々を覚えて祈っています。この祈りのつながりが主によって用いられますように。今号では、3.11を覚えての被災地での活動などをお届けします。また、「3.11を忘れない」ポスターも新しくなりました。今号と一緒に送らせていますので、新しいポスターも掲示していただき、引き続きお祈りとお支えをいただきますようお願いいたします。皆様に心から感謝して。

## 震災から8年を数えて・東北の教会や被災地での3・11

## 牡鹿半島・亶理支援活動

### 【盛岡教会】

3月10日(日)は岩手県大槌町安渡地域において避難訓練が行われ、訓練後の14時46分に合わせて鐘を鳴らして黙祷が捧げられました。3年ぶりの参加となりましたが、私たちが「バプテスト」だとわかると「まだ覚えていただき本当にありがとうございます」と一人の方から挨拶があり、やはり「覚えている」ことを行動で示すことは現地にとってこれからも長く必要になると再認識しました。これからも、「覚えている」ことを示していくことが必要だと考えました。(福田一央)



2019年3月10日(日) 避難訓練後の黙祷直前の様子 大槌安渡公民館前の仮設住宅そばにて

### 【仙台教会】

仙台教会は昨年まで3・11を記念し、市民の人たちにも呼びかけて「3・11追悼と黙想の夕べ」を行ってきました。東日本大震災から8年目を迎えた今年から、3月11日に近い主日礼拝を「3.11記念礼拝」として守るようにしました。今回は礼拝で、宮城チームで協力して行っている牡鹿半島での支援活動の報告を通して、今も復興途上にある被災地の方々に覚え、「東日本大震災から8年目を数えての祈り」を共にしました。

毎月の支援活動は、2017年度で終わりましたが、被災地の方々との関係は今もなお継続しており、3月9日(土)は3・11を記念し、全国のバプテストの皆さんの祈りと共にお花を届け、仙台教会と南光台教会で協力して牧浜では、「お茶っこ」をして久しぶりの出会いを喜び合いました。

いつも「お茶っこ」に参加しておられ、今回参加することができなかった95歳になる方を自宅に訪ねた時に、「私は人の話をよく聞いて、胸に納めて、無駄なことを言わないように、周りの人を騒がせないように生きてきたの。津波に遭い、病気もしたし、長生きもしたけど、それも人生なんだねえ。」としみじみと語っておられました。そして帰り際に、「皆さんに来てもらって本当に嬉しい、ありがとうございます。皆さんによろしく！」と言ってくださいました。その言葉を聞いて、高齢で震災に遭ってもなお、深い人生を歩んでおられる姿に感動させられました。今年はクリスマスにもう一度牡鹿を訪ね、クリスマスにお花を届け、お茶っこをします。どのような出会いになるか楽しみです。(小河義伸)



3/9 支援のお花とメッセージカード



3/9 牧浜集会所のお茶っこ



3/9 お茶っこに来れなかった阿部さんを訪ねて



3/9 お茶っこで肩もみをする田中師

### 【南光台教会】

3月9日(土)牡鹿半島(石巻市)を訪問しました。南光台教会は仙台教会と共に牧浜地区の皆さまに花鉢をお届けし、お茶っこをしました。翌日、東日本大震災から8年を数える追悼礼拝がささげられ、今年も被災時に会堂で避難生活をされた教会近隣に在住のご家族(3組)が参加されました。最近では追悼礼拝以外の教会イベントにも案内をするたび参加して下さるようになりました。(田中信矢)

### 【大富教会】

3月9日(土)牡鹿半島、給分浜で支援活動を行いました。お花とカードを全所帯に配布し、高台復興住宅集会所にて2年ぶりにお茶っこをし、旧交を温めました。

鮎川や黒崎も訪問し、石巻の旧元浦屋敷の仮設におられた方々にも引越先でお会いし、お花をお届けしました。

3月11日(月)はご近所の方も交え、追悼と分かち合いの時とし、ご家族を亡くされた方がたのために祈りを合わせました。(小田 衛)

### 【郡山コスモス通り教会】

2019年3月10日、例年と変わりなく「3・11追悼礼拝」をおささげしました。礼拝では、仮設支援にいつも係わってくださった兄弟に証をしていただき、遠方からは、追悼礼拝を覚えて姉妹も参加してくださいました。心をひとつに祈りを献げることができたことを感謝いたします。何年たっても忘れられない出来事ですが、私たちは苦しみの中で自分のことばかりではなく、主を仰ぎ、互いに祈りをもって支えあうような交わりが出来るということを改めて感じる日となりました。礼拝後、皆さんで昼食をいただきながら、連盟に連なる諸教会の皆さんの支援と祈りに感謝しつつ当時の思い出を語り合い、また計り知れない原発の収束までの道のりを考え、この問題について福島から発信しなければならないことが、沢山あることを皆さんで共有しました。(高橋悦子)



教会員による宣教

### 【長命ヶ丘教会】<亶理訪問>

仙台長命ヶ丘教会では、宮城県南部の亶理町の訪問を継続しています。亶理町には3月11日近辺に訪問することを避け、イースターの喜びを分かち合うために4月15日(月)に訪問しました。102回目となる今回の訪問では、仮設を出られた方々にイースターのお菓子をお届けして、キリストの復活の希望と被災地の復活への祈りを分かち合いました。仮設で一緒に遊んだ子どもたちも高校生になり、また大人の中でも亡くなられた方や病気を得られた方もおられ、8年の時を感じるのと同時に、祈りが深められるときとなりました。皆様のお祈りとお支えに感謝いたします。

#### <追悼と黙想の集い>

仙台長命ヶ丘教会では、3月11日(月)14時30分から「東日本大震災から8年追悼と黙想の集い」を行いました。これは地域に呼びかけて、毎年震災発生時刻14時46分に黙祷をし、現地支援委員会で作成した祈りの言葉を共に祈ることを中心にした祈り会です。3月はテレビで震災特番が多く放送される時期ですが、中にはその特番によって心が不安定になる方々もおられます。そのような方々も心を静めて祈ることが



お届けしたイースターのお菓子



亶理名産いちご「もういっこ」



被災された方のお宅でお茶っこ



追悼と黙想の集い教会にて